



1 徳江大橋付近が冠水 (R1) 2 避難所の様子 (R1)  
 3 大枝湛水防除施設に入った水を懸命に取り除く職員 (H10) 4 滝川周辺の道路が破損 (R1) 5  
 水につかった家屋 (徳江二階間々地区) (S61) 6  
 被害を受けた農作物 (H14) 7 食糧の差し入れに  
 笑みがこぼれる (S61) 8 水が引いた後の後片付  
 け (H10) 9 県北浄化センター付近が浸水 (R1)

国見町 水害の歴史

- ①昭和 61 年 8 月 5 日 豪雨  
 床上浸水 16 戸 床下浸水 4 戸  
 農地冠水 62.9ha

---

- ②平成 10 年 8 月 27 日 豪雨  
 床上浸水 8 戸 床下浸水 17 戸  
 農地冠水 78.5ha

---

- ③平成 14 年 7 月 10 日 台風 6 号  
 床上浸水 10 戸 床下浸水 1 戸  
 農地冠水 40.7ha

---

- ④令和元年 10 月 12 日 台風 19 号  
 床上浸水 14 戸 床下浸水 2 戸  
 農地冠水 79ha

特集 歴史に学び、備える——。

水害の歴史

国見町の豊かな自然の象徴のひとつである阿武隈川。徳江地区には、徳江川岸といわれる船着き場があり、歴史的に重要な交通の拠点でした。

しかし、阿武隈川では長雨や台風による影響で度々水位が上昇し、阿武隈川支流の滝川や佐久間川が氾濫・決壊し、甚大な水害を引き起こされてきました。

昭和 61 年 8 月に発生した、通称「8・5 水害」では、台風により増水した阿武隈川の水が、佐久間川などの中小河川に逆流・氾濫し、床上床下浸水 20 戸、田畑の冠水約 63 ヘクタールが被害を受けました。特に徳江前原地区では、全戸が孤立し、ポータで食糧を調達するという、前代未聞の出来事となりました。

その後も、平成 10 年 8 月の豪雨災害、平成 14 年 7 月の台風 6 号の水害が相次ぎ、記憶に新しい令和元年 10 月の台風では、過去の水害を超える降雨量、阿武隈川の観測史上最高水位を記録。

「8・5 水害」と同規模の被害が発生し、あらためて防災対策の必要性が浮き彫りとなりました。

水害に備える

今月の特集は、現在行われている水害対策や、皆さんに準備してもらいたい備え、いざというときに役立つ便利な防災情報を紹介します。

これから梅雨の時期を迎え、雨が多くなります。いつ発生するかわからない災害に対して、自分や大切な人たちを守るためになにができるのか、皆さんと一緒に考えます。